

4 救命救急センター



主要傷病別患者数

昨年度と比較して総数はやや増加している。傷病別に比較すると、重症脳血管障害は横ばいであるが、重症敗血症は2倍となっている。熱傷と重症外傷は減少傾向が続いている。その他の疾患の割合が急増しているのは、当院に受診歴がある1次、2次患者の受け入れを進めたことによるものと思われる。

病院前診療

ドクターカー（ラピッドレスポンスカー）は迅速な医療の提供を目指しているが、現実として各医療施設が患者の囲い込みを行なっているなどの弊害が出てきており、メディカルコントロール協議会でドクターカーのあり方や運用方法を見直す必要があると考える。

院内災害訓練

昨年度の机上訓練を継続するとともに、各診療科とDMATを交えた南海トラフ地震を想定するタスクフォースへと発展させたい。

今後の治療方針

① 2025年問題

2025年の高齢者人口のピークに合わせて、院内の救急患者のスムーズな受け入れ体制を構築したい。これには本来の3次救急医療施設としての設備や教育の充実、初療時の研修医のシャワー教育と入院患者の院内、院外へのドレナージ体制の構築が必要である。

② 阪神医療圏の拡大

当施設の医療圏は、阪神南医療圏と阪神北医療圏を合わせると180万人規模の医療圏に相当する。上記で述べた体制の構築に加えて、この医療圏の患者数獲得には、患者搬送方法、患者転送方法、患者経由方法、ならびに南海トラフ地震を想定した院内患者排出の為にドクターヘリの活用まで伸長して対策を練る必要がある。その為には阪神北医療圏の施設との強固な関係構築をする必要がある。

③ 地域医療機関との協調

当施設は3次救急医療に特化しており、上記の医療圏内の地域医療機関と協調して重症患者の転院搬送の受け入れと同時に急性期治療の時期を過ぎた患者の逆紹介を進める。また、救急医療を志す若い医師の人的交流をすすめて、当院が当該医療圏内の救命救急センター施設として得意とする外傷、集中治療に特化した医療の集約化の実現と質の成熟化を図っていききたい。

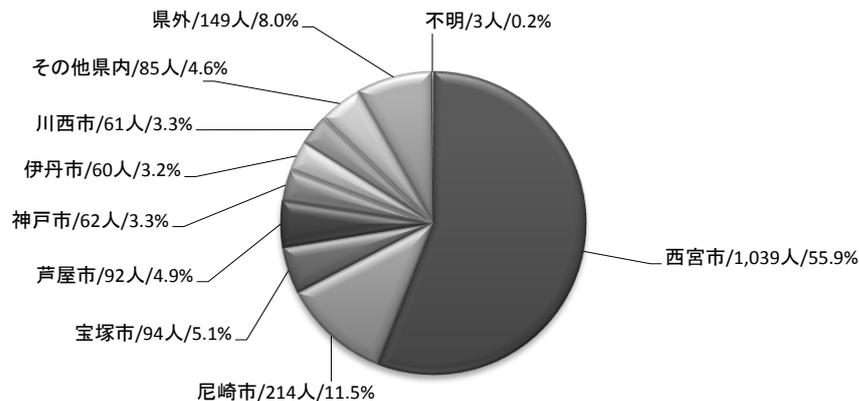
4-1 月別入院患者状況

(人)

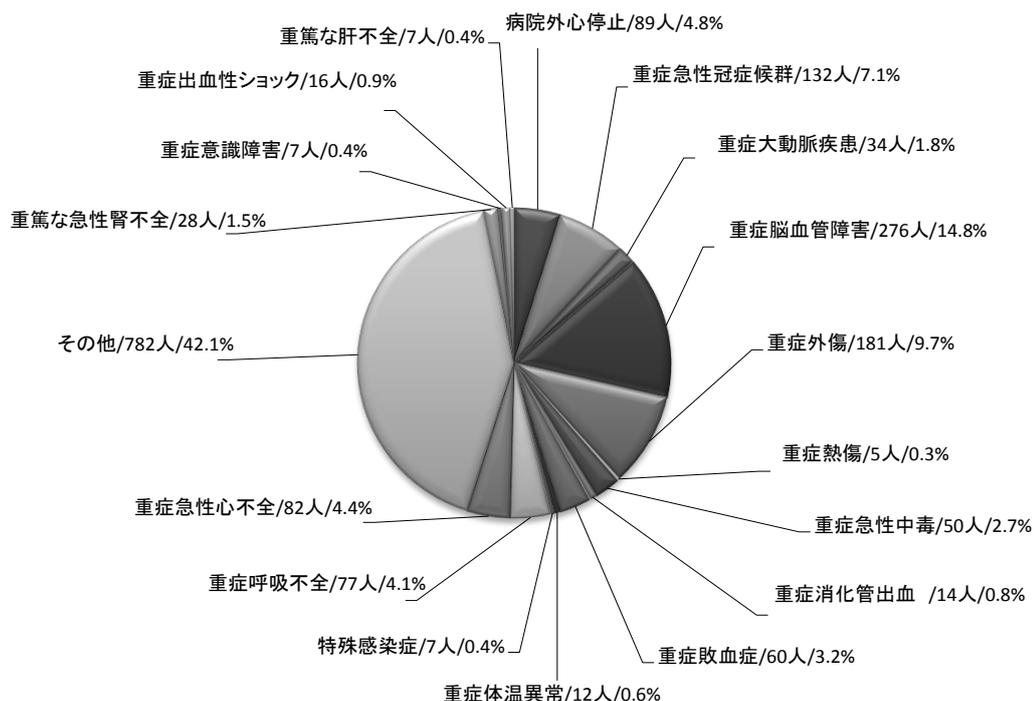
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
診療日数(日)	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365	
E I C U	新入室	112	129	139	128	143	127	113	131	165	169	132	129	1,617
	転入	13	15	16	16	11	17	16	19	10	10	11	17	171
	退院	24	18	12	20	19	22	15	20	27	23	34	23	257
	転出	103	126	141	123	135	118	119	127	153	152	112	122	1,531
	延在室	379	400	464	442	455	426	460	420	482	511	442	484	5,365
	一日平均	12.6	12.9	15.5	14.3	14.7	14.2	14.8	14.0	15.5	16.5	15.8	15.6	14.7
	利用率(%)	63.2	64.5	77.3	71.3	73.4	71.0	74.2	70.0	77.7	82.4	78.9	78.1	73.5
稼働率(%)	84.3	87.7	102.8	94.4	98.2	94.3	95.8	94.5	106.8	110.6	105.0	101.5	98.0	
救急 病棟	新入室	18	14	22	16	22	18	23	17	14	20	10	13	207
	転入	60	63	98	81	73	76	73	63	92	88	53	62	882
	退院	28	44	40	50	38	38	34	36	38	17	22	27	412
	転出	48	33	77	47	58	53	65	43	70	88	41	49	672
	延在室	498	505	569	601	617	580	603	573	624	653	629	674	7,126
	一日平均	16.6	16.3	19.0	19.4	19.9	19.3	19.5	19.1	20.1	21.1	22.5	21.7	19.5
	利用率(%)	69.2	67.9	79.0	80.8	82.9	80.6	81.0	79.6	83.9	87.8	93.6	90.6	81.3
稼働率(%)	79.7	78.2	95.3	93.8	95.8	93.2	94.4	90.6	98.4	101.9	103.0	100.8	93.7	

利用率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数}}{\text{実働延病床数}}$	稼働率 = $\frac{\text{在院(室)延患者数} + \text{退院(室)転出患者数}}{\text{実働延病床数}}$
--	--

4-2 30年度住所地別患者数の構成比率(合計1,859人)



4-3 30年度主要傷病別患者数の構成比率(合計1,859人)



4-4 30年度年齢別患者数の構成比率(合計1,859人)

